

最後は4連敗を喫し

3回戦

11年春季リーグ
第6週・5月30日
1勝2敗

試合終了後、整列する選手たち



黒星は付いたが、5回の危機を救った木村

5位で春季リーグ戦閉幕



今季2本目の本塁打を放つ江越【左】と江越を迎える戸柱【下】
チームとしては4試合ぶりの得点だった



追加点を許し、5回途中で降板した白崎勇

既に1部残留を決めて臨んだ今春の最終戦。2-2の同点で迎えた7回、2番手・木村大希(菅1)が左犠飛で1点を失い勝ち越される。その後打線は得点できず試合終了。4連敗を喫し、勝ち点2の5位で今季を終えた。

最下位が確定した国学院大との3回戦。3連敗中のチームは、来季につながるための試合を心がけたが、最後に勝利の花を飾ることはできなかった。最終戦のマウンドに上がったのはエース・白崎勇気

国学院大	000	110	100	3
駒大	000	020	000	2

5回、33回連続無得点中だった打線にようやく光が射した。先頭の戸柱恭孝(現3)が6番に上がってから初めての安打を放ち、1死二塁の好機をつくる。ここで打席に入った江越大賀(法1)は「二塁走者を返そうと思った」と、初球のスライダーを左翼席へ。「手応えがあった」と、今季2本目の本塁打で同点に追い付いた。なおも後続がつかない

2死一、二塁から、岡将吾(法4)が右前安打を放つが相手の中継プレーに阻まれ、勝ち越しを逃した。7回に木村が1点を許し、再び追い掛ける展開に。その裏、無死一、二塁の絶好の場面を迎えたが、けん制死と併殺打で無得点に終わる。残りの2回も走者を出すが、あと1本が出ず、そのままゲームセット。敗戦が続いた嫌な流れを



5回、岡の安打で本塁を狙ったが、相手捕手に阻まれた小林

主将の岡は「後半の負けは自分のせい」と、反省の言葉を口にした。日本一という春の忘れ物は、秋に必ず奪い取る。

写真：野木聡介
水出綾香
文：榊島知佳

[駒大]	打安点
④84 小林	4 10
⑧78 嘉数駿	2 00
⑥ 岡	3 20
⑤ 白崎浩	3 00
⑦ 山下川	2 00
H4 PH 7 田柴竹	1 00
② 戸邑柱	1 00
⑨ PH DH ③ 友下江	0 00
③ PH 3 PH 中松谷	2 10
	1 00
	4 22
	2 00
	1 00
	0 00
	1 00
	計3172
回	打安責
白崎勇	4 1/3 2062
●木村	2 2/3 1011
井口	2 710